

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

共同研究課題「日琉語族内的声調類型論の再構築」

2021年度第2回研究会（通算第2回目）報告書

日時：2021年8月7日（日）10:00～17:00

場所：Zoom によるオンライン開催

使用言語：日本語

共催：基幹研究「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築（LingDy3）」

科研費基盤研究 (B)「南琉球宮古諸方言のアクセントに関する調査研究」

プログラム：

10:00-10:10 青井隼人（AA 研／国立国語研究所）

趣旨説明

10:10-11:10 品川大輔（AA 研）

バントゥ諸語声調研究概観

11:20-12:20 平子達也（南山大学、AA 研共同研究員）

De Boer (2010) を再読する

12:20-13:30 昼休憩

13:30-14:30 青井隼人（AA 研／国立国語研究所）

宮古語多良間方言の語プロソディ：ピッチ・アクセント体系か欠性的音調体系か

14:40-15:40 セリック・ケナン（国立国語研究所、AA 研共同研究員）

宮古語のアクセント体系：レビューと展望

16:00-17:00 全員

全体討議

報告者：青井隼人（AA 研／国立国語研究所）

2021年度第2回研究会では、宮古語（日琉語族琉球語群南琉球語派）にとくにフォーカスを当てた。宮古語の声調（アクセント）研究は近年著しい発展が見られ、日琉語族声調（アクセント）研究の中でもとくに熱い注目を浴びている。本研究会では4件の研究発表があった。いずれの発表でも、質疑応答で活発な議論がおこなわれた。また最後の全体討議でも、有意義な情報交換・意見交換がなされた。